

## 第6回公民館運営審議会

- 1 開催日時 平成27年1月20日(火) 15:00~16:00
- 2 開催場所 小平市立仲町公民館 講座室2
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 13名  
事務局 館長 館長補佐兼事業担当係長 管理担当係長
- 4 傍聴者 なし
- 5 配布資料 (1) 平成26年度公民館定期講座実施状況・・・・・・・・・・資料1  
(2) 東京都公民館連絡協議会 職員部会・・・・・・・・・・資料2  
(3) 東京都公民館連絡協議会 委員部会・・・・・・・・・・資料3  
(4) 公民館のあり方検討状況について・・・・・・・・・・資料4  
(5) 平成27年度 公民館定期講座(案)一覧表・・・・・・・・・・資料5  
(6) 平成26年度第5回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・・資料6
- 6 次第 (1) 館長報告  
(2) 平成26年度 公民館定期講座実施状況について  
(3) 平成26年度 東京都公民館連絡協議会 職員部会・委員部会報告  
について  
(4) 公民館のあり方検討状況について  
(5) 平成27年度 公民館主催講座について  
(6) その他

### 会議の概要

#### 1 館長報告

##### (1) なかまちテラスの開館イベントの予定について

3月13日(金) 午前10時からなかまちテラスの地下ホールで開館式典を開催する。公運審からは会長と副会長の出席を予定している。同日午後6時からルネこだいら中ホールで設計者である妹島和世さんによる記念講演会を開催する。

3月14日(土) から利用開始となるが、2階の講座室では14日~4月2日(木)まで絵本作家の原画展を開催する。

14日と15日は部屋の貸し出しは行わず、施設の披露を目的として、サークル等が施

設を利用して活動している状況を自由に見学できるイベントを実施する。

3月21日（土・祝日）は午後2時からホールで絵本作家の講演会を開催する。

3月22日（日）はホールで、午前10時から午後4時まで主に音楽を楽しむ舞台発表を、午後6時からバイオリンとピアノによるアンサンブルコンサートを開催する。

3月28日（土）は午後2時からホールで子ども向けの科学講演会を開催する。

3月29日（日）はサークルの体験会を中心としたイベントを実施する予定である。

（質疑応答）

委員 14日、15日は部屋を貸し出さないで、サークル活動をするということは矛盾していないか。

事務局 その日に活動してもらう団体を事前に調整してある。

委員 展示などではなく、実際に活動しているところを見れるということか。

館長 自由に見られる。

委員 なかまちテラスでは新たなサークルをどのように募集したのか。

館長 リンクスプロジェクトの「この指とまれ」で新たなサークル活動を募集したところ、現在4～5団体が申請している。

委員 なかまちテラスの所管はどこか。また、建物の維持管理はどこか。

館長 公民館の部分の所管は従来どおり公民館、建物は図書館管理になる。事業は連携して進めていく。

## 2 定期講座実施状況について

事務局より資料1について説明した。

## 3 東京都公民館連絡協議会 職員部会・委員部会報告について

事務局、委員より資料2・3について説明した。

#### 4 公民館のあり方検討状況について

事務局 これまでに、4月から12月までに、9回開催した。

第1回から3回までは、地域リーダーとなる地域社会資源との連携状況の現状について、中央公民館や分館の状況の確認を行った。

第4回からは、地域社会資源との関係を築く具体的な方法について検討した。また、地域社会資源との関係の進捗状況について、次の会議までに進捗状況を報告することにした。

第7回では、これまでの検討結果として、公民館が関係を築く地域社会資源として、自治会、自主防災組織、学校、放課後子ども教室、青少年対策地区委員会、民生委員・児童委員、地域包括支援センターの7つの地域社会資源を標準とすることを確認した。なお、これらの7つの公民館が関係を築く地域社会資源は、各分館の状況に応じて多少の変更もある。

また、第7回以降は、公民館事業企画委員会について、開催方法や開催日数などの運営方法の検討を行っている。

これまでに、開催日数は、2か月に1回程度、委員の構成人数は10名程度、講座意見交換会は事業企画委員会が開催するなどの意見が出た。

今年度、鈴木公民館が公民館事業企画委員会を設置するモデル館とすることがほぼ決まった。鈴木公民館に設置する公民館事業企画委員会において、来年度に事業・講座などの企画を行っていくことになる。

その後は、鈴木公民館の活動内容を他の分館での事業企画委員会設置の参考としていく。

(質疑応答)

委員 議論した内容を開示できないのか。

事務局 議事録があるので出すことはできると思う。

委員 どういう対応をして、どういう点が問題で、どういう形で改善して、関係を築いていったのか示してほしい。

事務局 地域社会資源と関係を築く状況についての報告はあるが、詳細なものについては議事録に記載していない。

委員 公民館事業企画実行委員会の組織及び運営のあり方について審議をするという諮問を受けている。公民館事業企画委員会をどのように組織・運営されようとしているのか。示してもらいたい。

委員長 議事録の開示についてはよろしくお願いします。

委員 説明の中で、地域社会資源との関係を築く具体的な方法とあったが、具体的という意味がわからない。

事務局 地域社会資源と関係を築くことについてどのような手段を用いるか、ということであり、いつ、どこで、どんな方法で、どんな状況で繋がりを持ったかということを確認した。

委員 地域社会資源と繋がりをすでに持っているものも確認したのか。

事務局 地域社会資源とどんな関係を築いているか具体例を出し合って、分館全体で確認している。

委員 期限はあるのか。結果や具体的目標を決めて行っているのか。

事務局 標準的な7つの地域社会資源とは、今年度中に関係を築くことを目標としている。分館によっては、それ以外の地域社会資源と関係を築いている分館もある。標準的な7つの地域社会資源と関係を築いていない分館は、足りないところをいかに築いていくかという課題がある。

委員 今年度中には、ある程度の成果が発表できると思っているのか。

委員 標準化してない地域社会資源に対しての目途はついているのか。標準だけですべてが

網羅されているのか。

事務局 まず、標準的な7つの地域社会資源と関係を築き、それに各分館の状況に応じて標準以外の地域社会資源と繋がりを持つ。現在は、優先順位を変えて7つの地域社会資源の1つを落として別の地域社会資源と繋がりを持つことなどを調整している状況で、必ずしも7つの地域社会資源だけが繋がり先ではない。

委員 モデル館は鈴木公民館とのことだが、鈴木公民館と地域社会資源とは7つとも繋がっているのか。また、担当小学校が重なるところがあると思うが、公民館との関係はどうなっているか。

事務局 鈴木公民館はすでに7つの地域社会資源とだいたい繋がりがある。学校については、モデル館として、複数の学区域を持つかどうかは今後結論を出していきたい。

委員 自治会についてもその地域によって複数あるのではないか。

事務局 自治会にしても、主だったところと繋がっていくのか、その地域のすべてと繋がっていくのか結論は出ていないが、鈴木公民館をモデル館として今後検討したい。

委員 事業企画委員はどのように決めるのか。

事務局 地域社会資源と相談のうえ、公民館側から依頼するようになる。

委員 公民館事業企画委員会で、公民館利用者と地域の主な組織の人とが交わるが、会長を利用者がやるのか自治会長がやるのかによっても、合意形成が変わってくる。また、企画委員会と市民と職員が連携していくと思うが、企画委員会に委託するのか、助成金を出すのか、あるいは企画委員方式で公民館職員と市民で企画委員会を作って、市民からアイデアをもらい、企画が決まったら公民館が主体となっていくのか。今回は、企画委員会で出た企画を公民館が一旦引き取り、公民館が事業を考え、企画実行委員会が運営するのか。公民館と企画委員会・企画実行委員会・住民との連携がうまくいくのか気になる。

事務局 企画委員の人事をどうするのか、ということはまだ決まっていない。また、企画委員会から出た企画については、予算を含めてなるべく実行していく方向で努力していく。

委員 公民館事業企画実行委員会となかまちテラス未来づくり実行委員会とは同じか。

事務局 なかまちテラス未来づくり実行委員会は開館準備を含めた事業を考える会であり、今後の運営の中で企画委員会と重なるところもある。未来づくり実行委員会が発展したものが事業企画委員会になるかも知れないが、現在は企画実行委員会と未来づくり実行委員会とは別のものと認識している。

委員 なかまちテラスは1つのモデルだろうと市民としては受け止めている。そのモデルを仲町公民館でなく、鈴木公民館に置かれた理由は何かあるのか。

事務局 鈴木公民館は7つの地域社会資源のすべてと繋がりがあることが理由の一つである。

委員 鈴木公民館の企画委員会の実行はいつからか。

事務局 28年度の事業について27年度に企画することになる。

委員 鈴木公民館の7つの地域社会資源は、企画委員として活動していくことにポジティブな心構えで関わってくれと受け取っているのか。

事務局 日頃からやり取りをしていて、賛同してもらえそうな人をお願いをしてみるつもりである。

委員 各公民館の利用者懇談会や友の会も、今後重要性が高まってくると思うが、公民館として、利用者懇談会や友の会の位置づけをどのように考えているのか。

事務局 利用者懇談会や友の会については、今後ますます重要になると思っている。事業企画委員会の一員でもあるので、公民館としても利用者懇談会や友の会の運営を支援したいと思っている。利用者懇談会や友の会のない分館には発足できるようにできるだけ支援していきたい。

委員 なかまちテラスは7つの地域社会資源との関係が形成されていないから、モデルにならなかったとのことだが、なかまちテラスに関わっている人はこれからも継続的に関わっていく気持ちのある人だから、その思いをくみ取ってほしい。

委員 地域社会資源の中には公民館と関わりを持ちたい人とそうでない人がいる。関わりを持ちたくない人が多いと公民館を知らないこともある。事業企画委員の利用者団体の人数構成はどうなっているのか。

事務局 人数はまだ決めていない。1～2名かと思う。

委員 公民館は社会教育の機関なので、企画委員の中にある程度見識のある人がいないと難しいのではないかと。見識のある人が1～2名であと7名が知らない人だと数の力で決まることもあるので、検証しながら良い形を決めてほしい。

5 平成27年度公民館主催講座について  
事務局より資料5について説明した。

6 その他

中央公民館のまつりについては、市報こだいら2月20日号で案内予定であり、舞台発表等詳細は実行委員会で調整中である。今年は、例年同時期に行っている学習成果発表展の集客力が弱いことから、公民館まつりと同時開催することで集客力を高めることとした。

次回3月17日（火）午後2時より中央公民館会議室にて開催する。